

- 83 子宮外妊娠 7 症例にたいする Insulin enhanced Methotrexate 療法の効果について

岩手医大

吉崎 陽・佐藤昌之・井筒俊彦・西谷 巍

- 84 分娩ストレスと血中心房性ナトリウム利尿ホルモンおよび抗利尿ホルモンとの関連について

獨協医科大学

渡辺 博・田中光臣・小関みづほ・新部哲雄・熊坂高弘

〔目的〕 Methotrexate (MTX) は、絨毛性疾患の治療に広く用いられ、Trophoblast障害に有効である。近年妊娠性保存、とくに卵管機能の温存を目的とした子宮外妊娠の保存的治療の可能性が注目されている。しかしMTXの副作用や催奇性を考えると投与量の減少が必要である。われわれは、in vitroにおいて、Insulin (INS) が MTX の Trophoblast 細胞障害効果を増強させる事実に注目し、MTX作用を高めつつ投与量を減少できることが7例の子宮外妊娠症例にたいしMTX-INS療法によって確めた。

〔方法〕当科で子宮外妊娠と診断した症例のうち中絶所見のない7例を対象とし、MTX 0.2 - 0.3 mg/kg/日 筋注およびINS 4単位 / Body / 日筋注の5日間連続投与を1クールとした。尿中HCG量がLHレベルに低下した時点で寛解と診断した。

〔成績〕7症例の年令は21才から34才までで入院時の妊娠週数は5週から10週、尿中HCG量は320IU/Lから32000IU/Lであった。MTX総投与量は45mgから225mgで平均投与量は100mgであった。MTXによる副作用は軽微な肝機能障害、骨髓抑制、口内炎であった。MTX-INS療法後7例中2例が妊娠し、そのうち1例が21カ月後に正常児を分娩した。他の1例は現在妊娠6カ月であるが、右卵管切除術の既応があり受精卵が病側卵管を通過した。しかし2例で中絶症状が増強し緊急手術を余儀なくされた。

〔結論〕INS enhanced MTX 療法により投与量を減少したにもかかわらず、副作用を軽微にしたばかりでなく、この寛解率は良好であった。しかし緊急手術となつた症例が存在したので、適応症例の選択に検討の余地があると考えられた。

〔目的〕心房性ナトリウム利尿ホルモン (ANP) 濃度は胎児死例で上昇することが指摘されているが、おなじく胎児死例で高値を示しANPと相反する作用をしめす抗利尿ホルモン (ADH) を同時に測定し、分娩ストレスの指標として血液ガスを測定、各々の関連の有無を検討した。〔方法〕分娩時の母体血、臍帶動脈血、臍帯静脈血を採取し、母体血・臍帯静脈血ではANP・ADHを、臍帶動脈血ではANP・血液ガスを測定した。血中ANPはシリカゲルで抽出後RIAにて、血中ADHはRIAにて測定した。〔成績〕母体血のANP濃度は $103 \pm 27 \text{ pg/ml}$ (Mean \pm SE)、臍帶動脈血 155 ± 73 、臍帯静脈血 137 ± 64 と胎児側で高い傾向が見られた。血中ADH濃度は母体血 $9.3 \pm 2.1 \text{ pg/ml}$ 、臍帯静脈血 73 ± 33 と母体血濃度は基準値 $1.3 \sim 9.5 \text{ pg/ml}$ の範囲内におさまる例が多かったが、臍帯静脈血濃度は有意に($P < 0.01$)高値を示した。しかし母体血、臍帯静脈血においてANP・ADH間に相関関係は認められなかった。pH・BEとANP・ADHの関連を検討したがいずれも有意の相関関係は見られなかった。ANPはpH 7.25以下の例で $190 \pm 70 \text{ pg/ml}$ とやや高い傾向が見られたが、pH 7.25以上の症例との間に有意の差は見られなかった。臍帯静脈血ADHとpHとの間にも有意の相関関係は見られなかった。また先天性心疾患(Eisenmenger症候群)合併妊娠の母体血ANPは高値を示しBromocriptine投与中の母体から出生した児の臍帯血ANPも高値を呈した。〔結論〕ANP・ADHとも胎児側で高値であり、分娩時のストレスとの関連が示唆されるが、必ずしも急性ストレスの指標である血液ガス所見とは一致せず、慢性ストレスの影響やストレス以外の分泌機序も関与している。